

ったら市で長井市内の企業に例えば職をするんですけど、そこまで割り切って一たんここはここで整理するというのも必要ではないか。土地はあるわけですよね。だけどそこまでずるずる延ばすことに私ら合わせてやる必要もないんじゃないかと、こういう思いもありますので、その辺はちょっと少し検討いただきたいと思います。

時間ありません、一つだけ最後、なぜ「課中のいろんな組織機構は事前に我々に話ししてもらえませんか」ってお話ししたのは、前回そういう話あったんです、「条例に関係ないから」っていうことだったんですけど、今の市長のお話だと「事前審査になる」とおっしゃるんですけど、私非常に気になってるのは、緊急経済対策本部の設置もそうなんですが、実は新聞に載ってから私ら知るわけですよ。だから事前審査とか何かおっしゃるんですけど、組織の問題だって行財政改革推進会議でこういう見直し案が出ましたみたいな話になっちゃう。緊急経済対策本部だって「つくりました」という報告で、後で私らが知ると。私らは聞かれるわけです、市民から。「そういうことあるんですか」と、「どういうことなんですか」と。そういうことあるんで、事前審査じゃなくてね、私言ってるのは。そういう考えありますというのは、協議会というのは議会休会中でもできるわけですよ、委員会が。こういう考えなんだと、そこで審査するわけじゃありませんから、そういうふうには私にさせていただきたいと思うんです。本当に最近新聞で知ることが私ら先っていうのが非常に多いように思ってるんですが、ぜひその辺については十分に考えていただいて考慮いただいて、話、協議ですから協議、議会の中にいろんなこういう考え方あります、ありますというのは日常的にいろんなお話いただくということが必要ではないかと思っておりますので、その点だけお答えさせていただきたいと思っております。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、このたびの緊急経済対策本部の立ち上げについては、所管の委員会等にも報告しておりませんでした。というのは、まず緊急に立ち上げようということで準備会の予定だったものを繰り上げた。それが山形新聞の方に掲載されましたので事後みたいな形になりましたが、それ以前は、さまざまないろんな不祥事も含めてありましたけども、十分に注意を払ってきたつもりであります。このたびについては大変申しわけなく思っております。

また、議員からあった組織の部分については、実はまだ固めてないんですよ。どういう手続きをしてきたかということ、かなりことしは年度当初から、まず全職員にアンケート調査をいたしました。その集計を行って、それとあと担当の室の方で案をつかって、それにある程度意見を重ねて行革委員会に出したというものでございまして、実は私の考えは余り申し上げてない内容でありまして、ですから最終的には私自身が機構改革をすべきというふうに思って今回進めたもんですから、ある程度固めた段階で示したいという考えがありました。なお、議員ご指摘の部分はもっともな部分もございまして、それについてはこれから慎重に、そして十分に協議しながら進めてまいりたいと思っております。ありがとうございました。

## 我妻 昇議員の質問

○佐々木謙二議長 次に、順位9番、議席番号3番、我妻 昇議員。

(3番我妻 昇議員登壇)

○3番 我妻 昇議員 よろしくお願ひいたします。前の方が少し時間押しましたので、私はそれをのみ込む形で短時間で、しかも元気に質問

してまいりますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

それでは、通告してあります1件について質問をさせていただきます。

長井市の市営バスについてであります。二、三質問はいたしますが、主な内容が提案となりますことをあらかじめご了承ください。

この質問をするきっかけとなりましたのは、先月11月の12日から14日にかけて行ってきましたフォーラム21の会派による行政視察であります。その視察先の一つに選んだのが、市営バスの運行で先進的な取り組みをしている鹿児島県指宿市であります。指宿市は鹿児島県の最南端に位置する人口4万6,000人の都市で、立地条件から交通の便がとても悪く、民間のバス会社の撤退やJR指宿枕崎線の一部廃線もささやかれるような田舎町でありました。

そんな中、平成12年から第4次総合振興計画の重点事業に市営バスを位置づけ、アンケート調査や試験運行、条例制定などを経て平成15年から本格運行となっているようでございます。我々長井市にとって注目すべき点、学ぶべき点が幾つもありましたので、ここでご紹介をしたいと思います。

一つは、運行の目的であります。高齢者、交通弱者への交通手段の確保や交通空白地域の解消といった一般的な目的、項目のほかに、健康づくり、生きがいを目的に加えている点であります。これがどんなことに影響するかと申しますと、路線設定とバス停の位置に関係してきます。公民館はもちろん、温泉施設や文化施設、健康センター、運動場などの体育施設、公園、キャンプ場などバス停が多岐にわたり、その数は、1路線、多いところで64カ所にもなっております。バス停からバス停までは、1分刻みはもちろん、ゼロ分刻みというところもたくさんありました。長井市の場合には35カ所程度となっておりますが、距離も時間

もさほど大きく変わりありませんので、いかに指宿が細かくバス停を刻んでいるかがわかります。細かく刻むと時間がかかるとは思いますが、だれも乗りおりしなければ通過しますので、バス停の数はさほど影響しないということでありました。

次に注目すべきは、試験運転の方法であります。1次試験運行に半年、2次試験運行に半年、計1年もの時間を費やしている点です。当初4路線で試験運行したものの、1年間で統合や廃止を検討し、最終的に2路線に落ちついたようです。ここで重要なことが、住民への周知徹底だったようです。「1便当たりの乗車人数が10人未満の場合はその路線を廃止か統合します」という方針を最初から明確にし、丁寧に地域住民へ説明しています。その結果、1年後に廃止と決定された路線からは苦情は1件もなかったそうです。

3つ目は、思い切ったバスの運行方法です。2路線を1台のバスで運行するやり方であり、バスはマイクロバスですが、月・水・金曜日はA路線、火・木・土曜日はB路線としています。これで1台。利用者にとっては1日置きに回ってくるというバスになりますが、一見不便そうにも感じます。ですが、曜日の意識が高まり、利用が集中することで乗車率が上がります。結果として効率よい運営ができるということになります。これには研修をした会派のメンバー我々全員が驚かされてしまいました。でも、市役所の周辺の中心部は2つの路線が重なっていますので、毎日バスが回ってくるということにもなっております。不便さは感じないということでありました。

4つ目が、統一料金と委託方法です。料金は、どの路線、どこまで乗っても一律200円と設定しています。そしてその料金収入は委託先の民間バス会社の収入になり、またそれとは別に市から委託料も受け取っていますので、バス会社

+

は二重の収入になっています。しかし、そこにメリットが隠されていました。バス会社としてはぎりぎりの委託料を設定されていますので、料金収入を少しでも上げようと努力をします。つまり、利用者をふやせば利益が多くなりますので、一生懸命PRしたり利用しやすい方法を考えたりします。例えば市営バス、民間バス、フェリーや温泉施設などで共通に使えるICカードをつくっています。割り引きして利用拡大を図っているようです。行政側も市民への啓蒙は怠りません。なぜならば、少しでも利用者を多くしてバス会社の収入がふえれば、次年度の委託料を減額をする交渉ができるということからです。これは駆け引きですので成功するかどうかは限りませんが、市民サービスの向上のため利用促進に一生懸命のようでした。

以上、指宿市の市営バスの先進的な取り組みを紹介しましたが、長井市に置きかえて考えてみたいと思います。

現在、長井市の市営バスは長井・蔵京線と致芳・平野・公立置賜総合病院線の2路線が運行されていますが、蔵京線の方は、市営バスといっても地域住民が主体である西根地区交通確保対策協議会が委託先となり比較的安定した運営を行っておりますので、問題は少ないと思っています。利用者も1日50人から60人平均と多く、4便で割った1便当たりの乗車人数が10人を超えますので、先ほどの指宿市の例から見ても健全であると言えます。それに市からの持ち出し、これは委託料になりますが、19年度決算で75万円ほどにおさまっていることを考えれば、蔵京線こそ先進事例とも言えると思います。ただし、この額は年々ふえていることは注意しなければならないと思います。

問題は致芳・平野線の方です。こちらはどこにも委託せず運転手を雇用して運営しておりますので、本当の意味での直営となっており、市の持ち出しは250万円にも上ります。利用者は

1日20人から25人ですから1便当たりですと五、六人ということになり、先ほどの指宿の例でいえば残念なことに廃線となってしまいます。だからこそ、ここで指宿の市営バスを参考にして利用拡大を図る提案をしたいと思った次第であります。

まずは目的です。高齢者、交通弱者へのサービスや交通空白地域解消といった目的に加えまして、健康増進、生きがいつくり、中心市街地活性化、山形鉄道利用促進といった目的を設けてはどうでしょうか。おのずとそれに見合ったバス停が必要となり、住民にとっては利用しなくなるバスになるのではないのでしょうか。地区公民館、長井線の駅、はぎ苑、商店街、スーパー、勤労センター、あやめ公園、タスホテルなどです。

また、まちづくりや観光といった目的もいいのではないかと思います。これまでフットパスや町歩きイベントを幾度となくやってきましたが、そこで気づいた点があります。必ずといっていいほど市民の方から、「初めて歩いた」「またやってほしい」などと意見を多数いただきます。そういった歩くイベントと市営バスをリンクさせればお互いに相乗効果があり、おもしろさや楽しさがアップするような気がいたします。

さらに始発の時間を15分ぐらい早めれば、大雨や大雪のときなど小学校や高校へ通学する学生の補助にもできるのではないのでしょうか。指宿市でも小学校や高校の通学に使っている人がたくさんいらっしゃいました。市営バスは福祉バス、または病院への通院バスといったイメージがありますが、市民みんなが使える真の市民バスへの転換が図られるのではないのでしょうか。

次に、致芳線と平野線の2路線に分ける提案です。例えば月・水・金曜日は致芳線、火・木・土は平野線というふうに分けてはどうでしょう。不便な感じもしますが、利用者数から見

ても当然かもしれません。2つに分け距離が短くなった分、バス停をふやし、コースを若干延ばして魅力度をアップさせれば問題はないのではないのでしょうか。また、忘れてならないのが試験運行です。1年間も試験運行が必要かどうかはわかりませんが、明確な数値目標と周知徹底により市民に十分理解していただいた上で本格運行をさせるというやり方であります。もし利用者が少ないままならば、この路線は運行を取りやめますよという姿勢です。理由がはっきりしているのなら地域住民にもわかってもらえるはずです。

そして最後に、統一料金の提案です。長井線との兼ね合いもあり終点までの格安設定はできないにしろ、例えば長井駅や市役所などの中心部までなら200円といった統一料金の設定も検討の価値があると思いますし、蔵京線のように住民組織に委託することも視野に入れてはどうでしょうか。地区公民館の運営も指定管理者へ移行することですし、健康増進、生きがいがづくりの観点から、バスの運営を地域づくりと協調させるのも将来の方向として正しい道ではないかと思いますが、いかがでありますでしょうか。

以上のことを踏まえまして、内谷市長から、ご意見と今後の市営バスのあり方について考えをお聞かせ願いたいと存じます。企画調整課長からは、長井市の市営バスの運行方法、利用状況、課題など現状についてご答弁いただきますようお願い申し上げまして、壇上からの質問といたします。ご清聴ありがとうございました。

(拍手)

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻昇議員からは大変貴重なご提言をいただきまして、まことにありがとうございます。

今回の我妻議員の質問には遠く及びませんが、実は私も、現在のバスの運行状況はかなり問題あるということから、平成17年の秋ぐらいだっ

たと思いますけども、一般質問で、バスの運行体制についてフラワー長井線の利用と含めて提案したことがございます。ただ、今回、我妻議員から具体的に提案ありました運行の目的というところについては、全く私はそこまでは考えておりませんでしたので、やはりまた違った角度からの目的設定というのも非常に重要だというふうに思ったところでございます。

それと試験運行でありますけども、こういったこともやっぱりきちっとして、利用度が少なかったら変えていくということをあらかじめ住民の皆様様に説明して、そこを理解いただくようなきめ細かい方法が必要だろうというふうに思っております。それから1台のバスで2路線を走るとか、あるいは統一料金、この統一料金については私も大賛成でして、ワンコインとかでできればいいんですが、そこまではいかなくとも200円程度というのはいい料金設定かなというふうに思います。

具体的にちょっと申し上げてみたいと思いますが、まず西根の市民バスにつきましては、議員ご指摘のとおり西根の住民の皆さんが自主的に行っていただいているということでございますので、これらについては意見交換とか、あるいは市で新たなバス路線を設ける際にいろいろ情報交換はしなければならないだろうと思ってます。現在の運行、致芳・平野・公立置賜総合病院線ですね、そのバスの運転手にちょっと一度お話を伺ったことあるんですが、例えば置賜公立病院で一緒に待ってるときがあると。そうすると、自分のところに乗らないで西根の方に乗るんだと、非常に悔しいというような話も聞いておりますし、やはりすれ違ったときなんかも何人ぐらい乗ってるかというのは非常に気にしていると、何かもっといい運行方法を考えてほしいというふうなことを直接聞いたことがございます。

今の致芳・平野線については、恐らく、想像

+

で恐縮ですけども、致芳地区から要望があつて、ただ、今度平野地区だけカバーしないというわけにいかないということで平野地区も回ることにしてしまったと。その結果、病院に行くのに30分で行けるところを1時間以上かかると。ですから皆さん不便で使わなくなるというようなことになったのではないかなと。特に、最初希望のあつた致芳地区の方がほとんど使わなくて平野地区の方が使つてらっしゃるんでないか、そういうふうに見ております。これはいずれ改めなきゃいけないと。私も昨年、市バスの担当者とちょっと話したことあるんですが、なかなか難しいということにして、これは少し意識を変えて方法を考えていかなきゃいけないというふうに思ったところでございます。

そんなことで、我妻議員からありましたように、私も、まずまちなかを活性化するため、あと、今まちなか観光を標榜してるわけですから、つつじ公園から実は歩いて丸大扇屋あるいはあやめ公園へ行くというのは、行ける人はいいんですけども、つらい人もおりますので、やはり巡回バスがあるとなお一層まちなか観光が進むだろうというふうに思っております。あとフラワー長井線につきましては、ご承知のとおり南北線で走ってるわけですね。今のバスも南北線で走ってますから、これは改めなきゃならない。私が17年に提案したのは、東西線で走ったらどうですかと、駅を中心にできるだけきめ細かく集落のところを回って人に乗ってもらって、駅を中心に回ってもらおうと。例えば致芳と西根だったら白兔駅、成田駅、あやめ公園駅、長井駅あたりぐらいの路線でワンコインできめ細かく回ったらいいんじゃないですかと。あと、こちらについては長井と南長井、時庭あたりを伊佐沢を含めてぐるぐる回ると。必ず市役所、駅、商店街、そういったところを結んでやると。そしてフラワー長井線には置賜病院駅をつくと。これで私は一通りの交通体系ができるんじゃない

いかなというふうに思っております。

残念ながら病院駅については私も、公約の一つですが全くまだ進んでおりませんが、これは市でつくるというよりも、置賜病院でつくっていただくように一度非公式に相談したことがあります。そうしましたら、まず患者さんよりも職員が使うだろうという意見などもございました。

あとフラワー長井線も、愛し守る会あたりからもいろいろ意見いただいて、ダイヤを変えてく、あるいは増便する、夜ももう少し遅くまでする、フラワー長井線とつばさの連絡をもっと密にするとか、そういった改革もこれからなされようとしておりますので、そういった意味では、我妻議員からいただいたご提案をぜひ担当の方から詳細にお聞きしながら、来年度に向けてそういった試行をしてみたいというふうに思っていますので、よろしくご指導お願いいたします。大変ありがとうございました。

○佐々木謙二議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 我妻議員のご質問にお答え申し上げます。

まず、市営バスの運行等についてですが、ご質問にあつたとおり、市営バス長井・蔵京線と致芳・平野・公立置賜総合病院線の2路線を運行しております。運行に至った経過については、ただいま市長が申し上げたとおり、また議員のご質問のあつたとおり、交通弱者の交通手段の確保と、あとは公共交通の空白地域の解消ということで当初目的として運行しております。

両路線とも月曜から金曜日まで1日4便運行しております。市営バスの長井・蔵京線については、冬期間、12月1日から3月31日までの間、土曜日も1から3便まで、蔵京からうめや南店、ヤマザワまで運行しております。長井・蔵京線の方は、山交定期バスが廃止となった平成7年4月に西根地区交通確保対策協議会が運行を始めまして、平成8年から市の方が主体となって

委託を行って運行の進んでいるところでございます。一方、致芳・平野・公立置賜総合病院線は、当初JR今泉と置賜病院を結ぶシャトルバスとして最初運行してましたが、その後の利用者の減少等、隣接の市町との協議の中で運行支援負担金が廃止されまして、運行路線見直しで平成16年から現在の路線を走っているというふうな運行をしております。

利用状況でございますが、利用状況、近年の傾向としましては、利用客及び収入とも減少の傾向がございます。今年度についても、両路線とも昨年度より利用者、収入等が減少しております。長井・蔵京線は利用者数で約20%、収入で10%、致芳・平野・公立置賜総合病院線は利用者で7%、収入で約20%の減というふうな状況になっております。19年度の収支決算、前年度の収支決算については、ご質問にあったとおり、長井・蔵京線は約75万円、一方の致芳・平野・公立置賜総合病院線は250万円ほどの欠損が出てるといふような状況でございます。

こういった状況から課題等ということですが、先ほどほとんど市長が課題を申し上げたというふうに思っておりますが、これに加えて傾向としてですが、実は両路線の乗客の傾向ですが、やっぱり総合病院あるいは町中の個人病院、医院への利用が多いんですが、買い物目的というのは少ないというふうなことが言えると思います。また、フラワー長井線からの利用、あとフラワー長井線に乗るためのバスの利用というのも実は非常に少ないというふうな状況があります。ただし、今泉から公立置賜総合病院については若干の乗降があるというふうに運転手より聞いております。あと、通学の利用はほとんどございません。使われてないようでございます。あともう一つ、診療科目のせいもあるかもしれませんが、両路線とも火曜と木曜の利用が少ないという傾向があるようです。そういった傾向にあります。

以上、運行方法及び状況についてご報告申し上げます。

○佐々木謙二議長 3番、我妻 昇議員。

○3番 我妻 昇議員 答弁ありがとうございます。なかなかいい答弁いただきまして、再質問もしなくてもいいのかなと思ってるんですけども、ちょっと確認というか、大分時間もありませんし。

長井・蔵京線の利用を見ますと、12月から3月の4カ月の冬期間、運休というんでしょうか、うめや南店のところで終わってるんですね、公立置賜総合病院まで行かないんですね、あの蔵京線はね。ちょっとこれ何でかなと思ったんですが、それでも利用者数見ますと、蔵京線は公立置賜総合病院に行かなくても利用者数は多いんですね、その冬期間の利用者数見てもですね、結構多いんです、冬期間もね。ということは、先ほど企画調整課長が買い物のお客さん少ないと言うんですが、実は医者に行ったついでにかなりの人は買い物をしてるんじゃないかなっていうふうに、置賜総合病院まで行かなくても、町中までで冬期間ストップしてるのにもかかわらず人数がほとんど変わらないんですよ、ほかの時期と。まして多いかもしれないというところまであるんですね。

ですので本当は、やはり利用の目的として買い物や町中に行くと、それは医者に行くということなんだろうが、ついでにいろんなことをするというので、目的に中心市街地活性化ということをきちっと明示して、また、まちづくりということを明示して、そこに一生懸命取り組むんだという姿勢を示していけば、まだまだ可能性がある。

蔵京線に限らず問題の致芳・平野線についても同じく、やり方次第ではかなり可能性があるというふうに感じた数字を見せていただきましたので、ここは本気でっていうんでしょうか、単に福祉バスというようなイメージでなくて、

+

もっと明るいというとおかしいんですが、もっと前向きなというんでしょうか、イメージのバスに愛称なんかもつけて、ぜひ取り組んでほしいなど。例えば指宿市なんか「イッシーバス」だなんて言って恐竜のキャラクターをつけて、明るく何か乗りたくなるような見るだけでも楽しくなるようなバスにしていってほしいんですけども、まずお金もかかるんですが、愛称をつけるとか、そういった明るいイメージというのは非常に大切だと思いますので、ぜひ、買い物利用は少ないようだとおっしゃるに、そこを伸ばすことに努力をしていただきたいと思います。

今のことについて、企画調整課長、いかがですか。

○佐々木謙二議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 ただいまの長井・蔵京線の運行ですが、ちょっと1点ご説明申し上げたいと思います。

先ほど申し上げましたが、長井・蔵京線については1から4便までを冬期間も置賜病院までやっております。それに加えて冬期間、土曜日1から3便、うめやまでは行っていると、土曜日にも運行しているというようなことでございます。

（「夏はしてないってこと」の声あり）

○遠藤健司企画調整課長 夏はしておりません。

冬だけそういう3便、土曜日、その対策協議会の方でご希望をとって運行しているというふうなことではございますので、そういう意味では、土曜日の買い物ということが目的で地区の方が利用されているのは議員ご指摘のとおりでございます。

○佐々木謙二議長 3番、我妻 昇議員。

○3番 我妻 昇議員 そうですね、土曜日で利用客が多いということはそういうことになりますよね。お医者さんの方はやっているとところもあるんでしょうけれども、買い物目的というものもあるでしょうから、そこをぜひ伸ばしてほしい。愛称のことにも答えてほしかったんですが、

後でいいです。

あと、乗りかえというのも以前からあったと思います。例えば毎便全部の便が今泉まで行かなくても、例えば先ほど言ったように隔日に1日置きにするですとか、いろんな策をした場合に、この便だけ行くから、そこで乗り合わせというか、乗りかえをしようというような、そういった柔軟な考え方でいいですか、例えば伊佐沢なんかは冬期間しか住民バスは走っていないと思いますけれども、冬期間以外は伊佐沢も通っていくですとか、何かいろんな考え方できると思うんですよ。乗りかえ、また路線なんかももうちょっと柔軟に大きな目線で、また大胆にしているんでしょうか、曜日ごとに変えるというような大胆なことも含めて、より住民のためになるバスを目指していただきたいなと思います。

あと蔵京線も、大分利用者は多いといえども減っていることもありますので、蔵京線も含めて今のすべてのことを見直すというようなこともあるかと思いますが、ぜひ明るい未来のために、象徴となるようなバスにしていきたいと思います。

最後に、市長、もう一度だけお考えをいただきまして、終わりにしたいと思います。

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻議員からご提案いただいた明るいバス、愛称もつける、大賛成であります。ちょっとだけ言いわけをさせていただくと、実はことあたりから検討したかったんですが、もう人員体制からどうしようもないということでした、ぜひ来年から、議員からご指摘いただいたところを含めまして前向きに明るく取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 谷口栄子議員の質問